壊れた少女を拾ったので（旧:弁頭屋）

弁頭屋

まずは不可解な部分を脇に置いて見てみると、外国人の双子二人が日本人を誘拐しては殺害しているという非常にシンプルな作品。それに、戦争と生首を弁当箱代わりにするという非日常さを付け加える事でブラックユーモアを含んだ作品となっている。

国会においての強行採決や国会議員の軽はずみな発言など、決してありえないとは言えない内容であり、それが戦争へと進んでいくという民主主義への危うさを皮肉っている。

加えて、生首を弁当箱にし、それを何の疑問も無く使用している事で戦争を起こす国はどこか狂っている部分があるということを表現しているのではないか。

「戦争していると麻薬が出回る」という言葉もあるが、この言葉の解釈としては「麻薬をやっていないと戦争なんてやっていられない」と捉える事も出来るので、

この話にでてくる弁頭箱という物は麻薬の形を変えたものなのではないかと思う。国民が弁頭箱を使っているという非日常は、戦争中に麻薬を使う国民だと解釈出来ます。

作者は戦争＝狂っている、を伝えたかったのではないか。

グロテスクな表現は少なく、その手が苦手な人も楽しめるのではないかと思う。生首の表現よりも、弁頭箱自体の表現の仕方が妙に生々しく、面白さを感じる作品。

若干残念なのは、作品内に出てくるオリジナルの言葉の説明が不十分だと感じるところ。

赤ヒ月

これは文中で説明している通り、「共にいる人達」がキーワードになっている作品。

何も関心をしめさなかった主人公が、ある行為に興味を引かれていくという物語。

群れる事を否定していた主人公がある行為に興味を持つ事で、自らが否定していた群れる事への喜びに目覚めていく。今まで主人公が生きていた状態は何の感情も無い、まさに生きてはいない状態であり、それが臓物を貪るという行動でこの世に生を受けるという作品。

それはつまり、主人公が生というものを実感し始めたということであり、それが臓物を貪るという一種のサディスティックでマゾヒスティックな行動で表現する事で、生きる事は苦痛があり、苦痛の先に恍惚とした快楽が存在すると伝えたかったことではないか。

仲間を裏切る者には罰を与えるという今の世の中でも問題になっているイジメをも皮肉った作品だと思われる。

この作品で描かれているものは群れの中での馴れ合いと、それを脅かすものへの報復、生が与える苦痛と快楽。

にがつさんがこの作品の影響を少なからず受けているのでないかと推測できます。ラジオ中のコテを否定せず、馴れ合いを否定しない姿勢になっているのではないか・・・

あくまで推測であり、にがつさんのラジオを否定しているわけではないのでここで訂正

このPDFはpdfFactory試用版で作成されました www.nsd.co.jp/share/pdffact

しておきます。

カデンツァ

この作品は他の作品に比べて、ユーモラスに描かれていて、普通の作品として楽しめる作品。

描かれている物語は冷め切った夫婦がお互いに不倫をする話だが、その不倫相手を家電にする事によって本来不倫に感じられるドロドロとした人間模様をライトにし、コミカルに描かれているため、読みやすい作品だと思う。

擬人化を用いて恋愛を描いているところはとても面白いと感じた作品。

不思議ながらもコミカルでユーモラス、にがつさんがおススメだという理由も分かります。

愛と憎しみの量はイコールであると感じました。

男がホットプレートと愛し合う表現を熱いでかけてたのは面白かった。

壊れた少女を拾ったので

「おねえさま」＝この世で一番きれいで美しいもの

「わたくし」＝この世で一番醜いもの

「おねえさま」の美しさを協調し、「わたくし」を虫がわくというグロテクスな表現を用いて汚らしいものと表現し、「わたくし」と「おねえさま」を相反するものにしている。

そして「わたくし」をマゾヒスト、「おねえさま」をサディストで表現し、その間には越えることのできない主従関係にしている。

右記のような事から推測できる事は、「わたくし」が「おねえさま」に代わるための落ちに対しての前振り、決して相容れないはずの２人を一つにするための前段階。すべては落ちのためであると思われます。

「わたくし」が「おねえさま」を恐れつつも憧れの気持ちを持っているのも、そのためであると。

つまり、「わたくし」は「おねえさま」になる事をたてきないことと思いながらも、「おねえさま」になりたいという願望があった。

そして、その願望が拾ってきた少女であり、修理する＝願望を叶えることだったのではないかと思います。

ただ、物語としては自問自答で進んでいくため他の作品とは少々趣が違う。

私としてはこの作品が一番お気に入りです。

自問自答な進み方がとても楽しんで読むことが出来ました。そして、他の作品に対して落ちがあるというところが面白いと思いました。私自身、ミステリーが好きなこともあると思います。

余談ですが、この「おねえさま」が、にがつさんと重なってしまうことがありました。

このPDFはpdfFactory試用版で作成されました www.nsd.co.jp/share/pdffact

たてきない私みたいなものが、このような発想をしてすいません。
にがつさんがサディスティックということではなく、あくまで「おねえさま」のイメージとにがつさんのイメージが私の中で重なりやすかったということにすぎないので、決してにがつさんをなじっているわけではありません。

桃色遊戯

この作品は世界が滅びるとしたらという「もしも」の世界を描いている作品。
人が死ぬ時、何を考えるのかという人間模様を描いていると思う。
ピンクが襲ってきて世界中を包んでいる部分が、細菌――主にインフルエンザパンデミックと重なり、これもかなり身近に感じることの出来る作品ではないかと思われる。
そして、人間が滅んでも世界は変わらず動くという表現により、この世界は人間中心という考えを皮肉った作品だと思われます。

評価(5段階評価)　　作品別

面白さ　星×4　弁頭屋　星×3．5
グロテスク　星×2　赤ヒ月　星×3
おススメ　星×2　カデンツァ　星×4．5
読みやすさ　星×4　壊れた少女を拾ったので　星×4．5
総合評価　星×4　桃色遊戯　星×2

もし、これを読んで少しでも不快に思ってしまったのならば謝っておきます。あくまで、個人的な意見なのであまり気になさらないでください。
特に「壊れた少女を拾ったので」は、結果は決まっていても解釈のしかたは色々あると思うので、これが正しいというものは無いと思います。
面白さが1少ないのは個人的にもう少しグロさがあると思ったからで、その部分でマイナス0．5。ミステリー要素が1つの作品にしかなかったためその部分でマイナス0．5。
グロテスクはあまり無かったので、まあ普通よりも1つ多い2。
この作品を他の人に薦められるかどうかは、あまりお勧めはできないと思われ、理解がある人にしか薦められない作品だと思います。別に薦めてくれたにがつさんをなじっているわけではありません。
読みやすさはグロテスクな表現をライトな感じで描いているため読みやすさはありましたが、グロテスクな表現がある時点で少し読みにくくなることと、説明不足な場所で困惑する部分もあるのでマイナス1。
で、総合評価は平均を取って4になりました。
評価に関係なく面白い作品だったので、にがつさんがおススメする気持ちも分かりました。あまり読んだことの無いジャンルだったということもあると思います。

このPDFはpdfFactory試用版で作成されました www.nsd.co.jp/share/pdffact

全体的にたてきないので楽しめる文章ではなかったと思います。本当にたてきなくて、たてきなくてすいません。

この作品をグロテスクだと勘違いされている方が多いと思うので、この作品はグロテスクではなくどっちかというとファンタジーだと思います。過度なグロテスクな表現は無く必要最低限にとどめている為、気分を害するような事はないと思います。勘違いされている方は読んでみるといいかもしれません。

にがつさんを理解する上でこの本を読んで見るのもいいかもしれませんね。

初めてお便りを差し上げます

余寒の候、ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。平素はひとかたならぬ御愛顧を賜り、ありがとうございます。

このたび、誕生日を迎えられるという事でこの感想文をお祝いの言葉と代えさせていただきます。

誕生日という日は祝い事ではございますが、実際のところ、誕生日を迎えられたものに対し、生まれて来たことで少なからず影響を受けたものが感謝する日だと心得ております。

私としましては、にがつさんが生まれて来たことに対して少なくとも影響を受けたことは間違えありません。それがいい影響か悪い影響かは、いささか意見が分かれるところではございます。しかしながら、にがつさんという存在を知りえたという事は大変意味のあることだったと思います。

さて、今回の感想文ですが、「壊れた少女を拾いまして」をおススメしていただいたにがつさんの誠意に対して、少しでもお応えしたいとしたためた物です。感想文というものを書いた事が久しい事と文章力の無さで、お見苦しい文になってしまったと思います。

これは、にがつさんの誠意に未熟ながらも応えようと苦心した結果なのでお許しいただければ幸いです。

長々となってしまいましたが、誕生日を迎えられた事に対してお祝いの言葉贈ります。

そして、これからのご活躍心より願っております。

にがつさん、誕生日おめでとうございます。

裏方でしかいられることの出来ない私なので署名をしないことをお許しください。

敬具

このPDFはpdfFactory試用版で作成されました www.nsd.co.jp/share/pdffact